

平成27年度事業報告



学校法人 城星学園

はじめに

学校法人の健全経営とともに充実発展をはかるため、平成27年度において様々な取り組みを実施した。特に平成26年度に学園創立者ドン・ボスコ生誕200周年を迎え、平成27年度にかけて学園全体で様々な記念行事を開催した。「こどもを愛するだけでは足りない、こどもが愛されていると感じなければならない」という言葉に代表されるドン・ボスコの教育理念は、現代社会においてますます求められている。そこで、理事長より策定された「平成27年度からの学園運営方針(別掲)」に基づいて、カトリック学校として、学園の建学の精神のもとに各校種が一つになって、今一度ドン・ボスコの教育理念に立ち返り、今後も充実した教育活動等を推進していく。幼小中高の各教育活動が展開される中で、子どもの成長に合わせて、一貫した教育理念のもとで教育できる総合学園としての強みを活かし、学園が一つになって教育活動に努めていくことが使命である。近年、特に小学校から中学校への内部進学者が減少しているが、上記の使命に基づく教育改革、広報活動強化、小中連携活動の実施を通じて改善をはかりたい。

また、外部より情報公開とともに積極的な自己点検評価・学校評価が求められている点について、学園後援会との連携のもとにより積極的な評価活動を実施し、学園の教育活動に活かすとともに、情報発信に努めたい。

《平成27年度からの学園運営方針》

1. カトリック学校を維持する。
2. 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する。
3. 『「良心的な人間、よき社会人」を育成する教職員』を育成する。
4. 校種間連携を強化する。
5. 自然に挨拶が交わせる学園にする。

《平成27年度取り組み事例》

- ・各校種の教育活動及び広報活動等（各校種の活動報告参照）
- ・各校種の自己評価及び学校評価の実施。（学園ホームページ掲載）
- ・中高教育改革（15改革）の推進
- ・幼稚園未就園児対象の体験広場や預かり保育等による子育て支援の実施
- ・ドン・ボスコ生誕200周年記念事業の実施
- ・守衛・警備の強化
- ・学園広報活動の充実（各校種の活動報告参照）
- ・JAT（城星学園課外教育活動）プログラムの実施
- ・事業計画の充実に向けた計画書の見直し

次頁より、各校種の教育活動等について報告する。

1. 法人の概要

建学の精神 : 城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命とする。

所在地 大阪府大阪市中央区玉造2丁目23番26号

法人成立の年月日 昭和28年3月25日

学校設置認可年月日

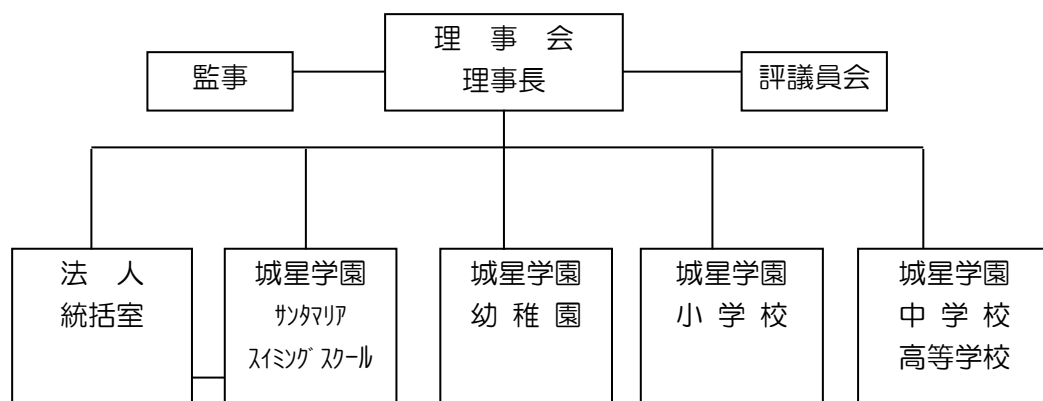
幼稚園 昭和28年3月16日

小学校 昭和28年3月16日

中学校 昭和34年2月27日

高等学校 昭和37年1月14日

学校法人 城星学園 組織図 (平成28年4月1日現在)



1) 設置学校及びクラス数

(平成28年度)

城星学園幼稚園 9クラス: 3年保育3クラス、2年保育3クラス、1年保育3クラス

城星学園小学校 18クラス: 1年3クラス、2年3クラス、3年3クラス、4年3クラス、5年3クラス、6年3クラス

城星学園中学校 3クラス: 1年 1クラス

2年 1クラス

3年 総合進学・特別進学コース1クラス

城星学園高等学校 9クラス: 1年 総合進学コース2クラス、特別進学コース1クラス

(全日制普通科)

2年 総合進学コース2クラス、特別進学コース1クラス

3年 総合進学コース1クラス、特別進学コース1クラス、国際コミュニケーションコース1クラス

(平成27年度)

城星学園幼稚園 9クラス: 3年保育3クラス、2年保育3クラス、1年保育3クラス

城星学園小学校 18クラス: 1年3クラス、2年3クラス、3年3クラス、4年3クラス、5年3クラス、6年3クラス

城星学園中学校 4クラス: 1年 1クラス

2年 1クラス

3年 総合進学コース1クラス、特別進学コース1クラス

城星学園高等学校 9クラス: 1年 総合進学コース2クラス、特別進学コース1クラス

(全日制普通科)

2年 総合進学コース1クラス、特別進学コース1クラス、国際コミュニケーションコース1クラス

3年 総合進学コース1クラス、特別進学コース1クラス、国際コミュニケーションコース1クラス

2)定員および在籍者数(各5月1日現在)

年 度	幼稚園 (定員 280)		小学校 (定員 600)		中学校 (定員 180)		高等学校 (定員 450)		計	増減 (対前年度)
	クラス	現員	クラス	現員	クラス	現員	クラス	現員	現員	
平成 28	9	278	18	571	4	53	9	223	1,125	△ 4
平成 27	9	276	18	574	4	60	9	219	1,129	△11

3)役員等・教職員

役 員 等:

年 度	理事	監事	評議員
平成 28	7 人	2 人	1 7 人
平成 27	8 人	2 人	1 7 人

教職員:

(人)

年度	幼稚園			小学校			中学校			高等学校			法人統括室			SS			計
	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	その他	
平成28	15	2	4	24	9	2	4	3	1	17	7	12	9	3	3	2	4	19	140
	計 21			計 35			計 8			計 36			計 15			計 25			
平成27	15	2	5	25	8	1	5	4	1	18	7	13	8	3	2	2	4	17	140
	計 22			計 34			計 10			計 38			計 13			計 23			

4) 役員会の開催

① 理事会・評議員会

理事会: 平成27年 5月
 平成27年 8月(休会)
 平成27年11月
 平成28年 3月

評議員会: 平成27年 5月
 平成28年 3月

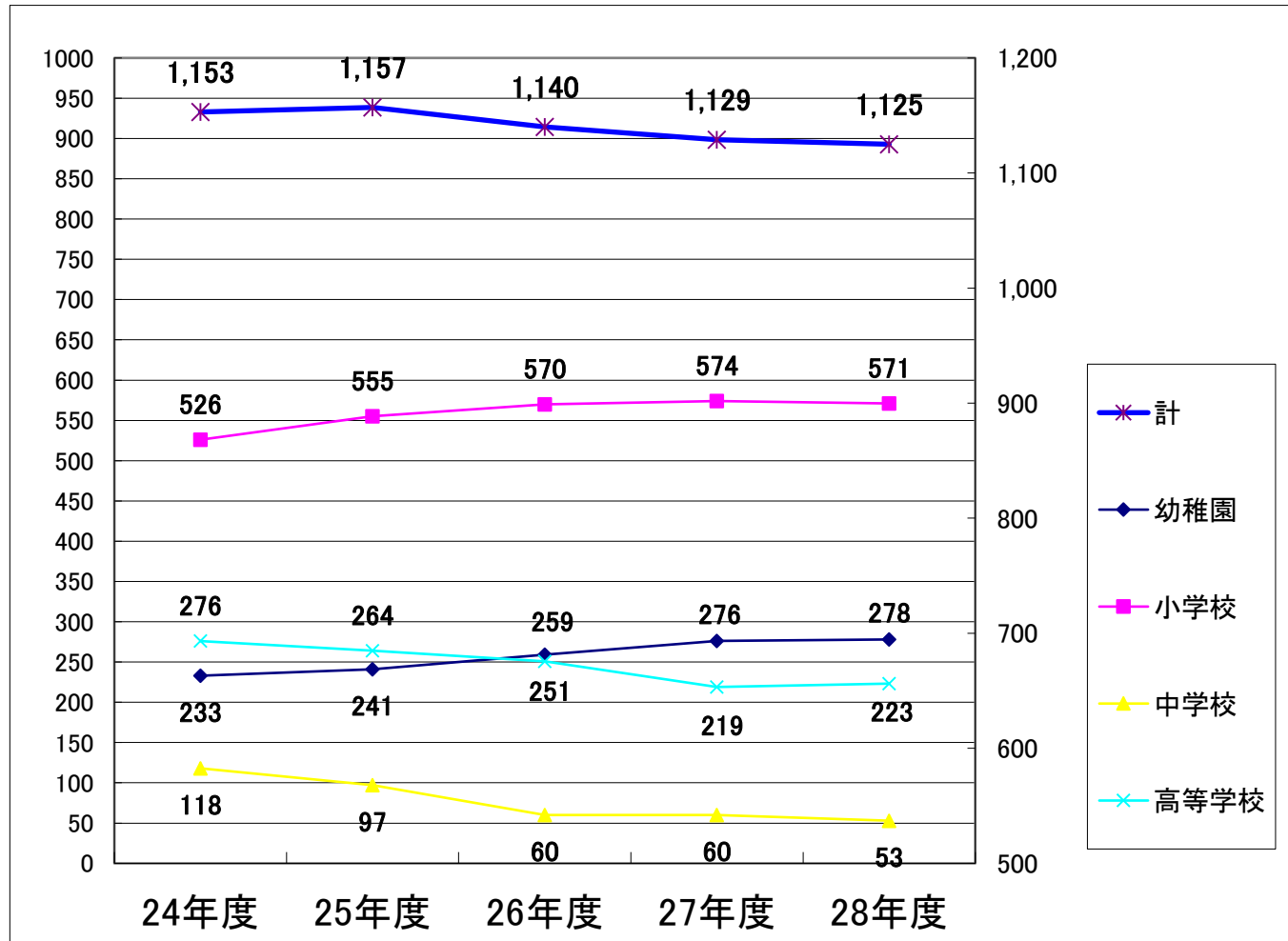
② 監査: 平成27年 5月

1) 募集計画及び教育計画等

()は内部進学者数。 ※別途入園者含む。

年度	区 分	幼稚園			小学校	中学校	高等学校
		3年保育	2年保育	1年保育			
平成 29	新入生募集人員	90	若干名	若干名	約100	40	75
平成 28	新入生募集人員	80	20	若干名	100	40	75
	志願者数	136	6	0	155	19	120
	受験者数	136	6	0	149	19	120
	合格者数	106	5	0	120	19	120
	入学者数	98	5	0	99(29)	16(6)	86(20)
平成 27	新入生募集人員	80	20	若干名	100	40	75
	志願者数	124	8	1	181	30	86
	合格者数	106	6	0	126	27	86
	入学者数	101	5	0	105(33)	19(6)	64(15)

生徒数推移



1) 教育活動報告：幼稚園

平成27年度 事業計画	報告
<p>☆ 愛されているわたしたち、大切なひとりひとり。(共に育つ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アシステンツァの実践 ・神を知り、祈りと感謝の心を育てる。 ・誰かのために自分のもっている力を使うことの大切さを知る。 ・共に生きることの大切さを知り、共に生活するために必要な習慣や態度を身につける。 ・「ルールを守る」「ゆるし合う体験」「自己調整力」 ・友だちや周りの人の違いや他者の良さを受け入れようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと共に過ごし活動し、寄り添いながら、必要な援助をしてきた。 ・祈りの時間や宗教教育を通して、神様を身近に感じ感謝の気持ちや友達を思いやる気持ちが育ってきた。 ・安心して過ごせる場所を見つけ、様々な経験をする事で自信をもち、伸び伸びと活動する姿が見られた。 ・D・Bの研修会を通して教育法を学び直すことができ、保育を見直すきっかけとなり、子ども達の中にもD・Bに興味、関心を持って過ごす姿が見られた。 ・活動の中で教え合い、譲り合う姿が見られてきた。 ・預かり保育の中で学年をこえて関わる姿が見られ、優しい気持ち、思いやる気持ちが培われているのではないかと思う。
<p>☆ 自分で、自分から (自立と自律)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことは自分でする。 ・自分で考えて判断し、行動できるようになる。 ・危険な場所、危険な遊び方、災害時の行動の仕方がわかり、安全の気をつけて遊ぶ。 ・遊びの中で、楽しみ、試し、工夫し、見通しをもって遊びを発展させていく。 <p>－「興味の広がり」「深まり」「自己を調整する力」「気づき」－</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム活動・絵画製作を積み重ねたことにより、自信を持つ事ができ、作品に創意工夫が見られた。 ・自ら進んで挨拶をする子どもたちが多いように感じる。 ・自由遊び時間を楽しみアイデアを出し合って遊ぶ姿や、自分なりに工夫して遊びを広げていく姿が見られた。 ・子ども達が見通しをもって保育活動に取り組めるように、声掛けを行ってきたことで、見通しをもって活動する姿が見られた。 ・教師が自分のクラス以外の子どもたちにも声を掛けたり指導したりすることで、生活するための必要な習慣や態度が身につく、幼稚園の雰囲気も変わってきたように感じる。

<p>☆ ひびき合う心、豊かな感性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友だちと共にいる喜びの中で自分を素直に表現できるようになる。 ・困っている人に気づき、思いやる言葉かけができる。 ・自然の大切さを考え、物を大切に、環境を守ろうとする。 ・保育者と共に季節の移ろいを感じ取ったり、小さなことに感動しながら感性をみがく。 ・世界の人々、特に困っている人に目を向け、何ができるかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な野菜の栽培や、虫やメダカの飼育などを通して、それぞれの成長に興味、関心を持ち関わる姿に、身近な自然や生き物との触れ合いの大切さを感じた。 ・収穫した野菜を食べる（給食で調理）ことで、野菜が好きになったり、有難みを感じる事が出来たりしたようだった。 ・苦手と思うことには消極的な姿があったが、取り組む姿を認め自信が持てるように関わってきたことで、意欲的に挑戦する姿がみられるようになってきている。 ・自分の思いを素直に表現できる子どもが多く、遊びや活動に広がりを感じた。 ・自由遊びを楽しみ、その中で社会的ルールを学ぶことが出来ていたと感じた。
<p>☆ 表現活動に力点を置く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの表現力を育てるために種々の環境設定を行い自己表現できる場を与えることによって、感性・想像力・創造性・技能等基礎となる力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ことば、音楽と3年間の積み重ねの重要性を今年度子ども達の姿を見て実感することが出来た。子どもの成長、発達段階に応じた積み重ねを日々続けていけるようにしたい。 ・英語・音楽・体育と様々な活動に、意欲的、積極的に取り組む姿が見られた。
<p>☆ 遊びの環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素材・教材研究、細やかな配慮、子どもの遊びに寄り添う等の実践を通して、子どもの遊びを充実させ、遊びの中でこそ体験できる自由な発想や表現力、想像力を培い、子どもたちの自発的な遊びを促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・素材・教材研究をしながら、活動におろしていたが、まだまだ研究していく必要があると感じる。自由活動の中に、廃材や、色画用紙などを準備していたこともあり、遊びに広がりを感じた。
<p>☆ 応用力を培う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本を大切に、それを子どもたちに分かりやすく、順序を追って、しっかりと伝え、応用力を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の手順を分かりやすく説明し、時計を使うなどして見通しをもって活動に取り組めるようにした。
<p>☆ 基本的な生活習慣の確立。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、整理整頓、身の回りの始末等 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から挨拶をする子どもが多く見られた、身の回りの始末も自分で気付いて行なう姿が見られた。

<p>☆ 基本的な生活習慣の確立。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、整理整頓、身の回りの始末等 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から挨拶をする子どもが多く見られた、身の回りの始末も自分で気付いて行なう姿が見られた。
<p>☆ 特別活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの基礎能力の向上のため、専門講師による英語教室・音楽・リズム指導 ・体育教室を開講している。（年中・年長組、年間各 20 時間） ・平成 27 年度より、年長組・年中組を対象に体育課外教室を開講する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら活動に参加する様子が見られた。 ・伸び伸び体を動かすと共に、けじめをつけながら取り組んでいた。 ・希望者 20 名ずつが参加。保護者の参観も行い、教室の様子を見て頂いてよかった。

2) 募集活動報告：幼稚園

平成27年度 事業計画	報告
<p>(要項、リーフレットなどの作成) 募集要項300部/ポスター15部/行事案内500部 (学校説明会(学園内外)の開催) 入試説明会 9月に2回実施 幼稚園見学会 6月～9月の毎火曜日 11回実施 親子で遊ぼう 6月、7月、9月 4回実施 体験ひろば 4月～3月 毎月3回実施 (学校・塾訪問) ポスター配布等働きかけ/説明会・幼稚園紹介の機会獲得 例年4～5塾 (広告媒体の活用) 学園のホームページに掲載 大阪私立幼稚園ガイドブックに掲載 大阪府私立幼稚園連盟のホームページに掲載 (その他) ・保育内容の充実を図り、保護者と地域の満足度を高める。 ・保護者へのPRと幼稚園の紹介を依頼する。 ・保護者との信頼関係を築く努力をする。</p>	<p>予定通り作成し配布することができた 大勢の参加があった。体験ひろばを通年(5月～3月)行なうことで、園の様子を感じてもらうことができた 塾の要請を受けて説明会に出かけた 学園のホームページの作成には、時期にかなった事柄を掲載できるようにした 保護者会、見学会など、募集への取り組みを通してP・Rに努めた。園児の居住エリアを考慮して、通園バスの経路の変更を行った</p>

1) 教育活動報告：小学校

平成27年度 事業計画	報告
<p>ドン・ボスコの心で教育しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 善悪の判断ができる子に育成するため、実態に対処しうる研修を実施し指導力をつける。悪に対しては、毅然とした姿勢で、子どもの指導を行い、保護者の協力も得るよう努める。 ◆ 私たちが目指す全人教育、特に善悪を伴う判断と行動に対して、的確な指導と、保護者への正しい啓蒙を図ると共に協力を呼び掛ける。 ◆ 集団生活の秩序を保つため、規範意識を高めるよう教師全員が共通意識をもって指導していく。予防教育法でいう「道理と規則」とは、どのようなものを深く理解した上で、教師自身の威厳を保ち子どもたちに関わっていく。 ◆ 中学年後期より高学年に至って過熱する中学校受験が、子どもたちの健全な心の成長を妨げている実情を親に知らせ、共に考えていくための学年保護者会を、実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドン・ボスコ研修も勉強になった。 ・児童がした悪いことを伝える時に、必ずその児童の良いことも伝えるようにしていきたい。 ・共通理解は難しい点もあるが、今後も努力していきたい。 ・今年度は6年生も比較的落ち着いて授業を受けていたのではないだろうか。

<p>実践的課題 一常に創意ある実践的変革をー</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宗教的価値観の育成 2. アシスタントの励行強化 3. 授業研究と研鑽 4. 指導体制 高学年での専科担任制の充実を図る。 5. 初任者研修 6. ノートづくり 7. 学校行事 8. 管理職（先輩，同輩含む）への報告，連絡，相談を密にする。 9. 児童生活指導(躰) 10. いじめの対応 11. 読書 12. 保護者へのアプローチ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドン・ボスコ研修会や宗教研修会が私たちにとってためになっている。 ・ 十分とはいえないが、よくやっていると思う。 ・ 研究授業に中高からも来てくれるようになった。 ・ 専科担任制により、教科毎で孤立してしまわないように気をつけていた。教材研究も含めて学年での話し合いは十分できたと感じている。 ・ 本校は、初任者にとっては助かる環境である。研究授業のときにたくさん時間を割いていただいた。 ・ 定着している。ノートづくりを楽しんでいる子が多い。 ・ 典礼集会の持ち方が簡素化されるようになった。 ・ 周りの教師にも、クラスの出来事を話しているため、共通理解ができている。 ・ 登下校指導していてもきちんとできているのは見ているときだけである。 ・ クラスの中で、嫌な思いを抱えている児童がいたとき、それをすぐに把握できるアンテナをはって指導してきた。 ・ 素読の課題を小さい紙にコピーして渡し、家でも練習できるようにさせた。子どもがよく覚えてくるようになり、良い効果が得られた。 ・ 学級通信等でクラスの様子などを情報発信している。
---	---

2) 募集活動報告：小学校

平成27年度 事業計画	報告
<p>(要項、リーフレットなどの作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集要項「光の子」2,000部/ポスター 150部 ・入学願書早期配布(3月21日 学校説明会より) <p>(学校説明会(学園内外)の開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクール 4月16日、5月12日、9月3日 3回実施(於.講堂) ・学校説明会 3月21日、6月27日 <p>(幼稚園・塾訪問)</p> <p>エリア拡大/積極的働きかけ/説明会の機会獲得 北摂、京阪沿線進出</p> <p>(広告媒体の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第五回 関西私立小学校展 4月5日参加予定 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部幼稚園園児と児童の交流の場を設定する。 ・教員、児童、生徒の交流を図り相互理解を深める。 <p>※交換研究授業、合同クラブ活動などの実施</p>	<p>計画通り作成</p> <p>第1回説明会 268組、体験学習 204名</p> <p>第2回説明会 221組</p> <p>オープンスクール 1回.209組、2回.216組、3回.263組</p> <p>模擬試験 6回 教育講演 2園 塾12か所</p> <p>関西私立学校展、キッズフェスタ参加</p> <p>1年生と、内部幼稚園年中児との交流会実施(3月)</p> <p>ドン・ボスコ生誕200周年閉幕式において合同実施</p> <p>小学校内研究授業に参加を呼びかけた</p>

1) 教育活動報告：中学校・高等学校

平成27年度 事業計画	報告
<p>1. 生徒の主体性を育成する教育的な関わり（アシステンツァ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立した生き方、主体的な生き方につながるキリスト教精神による教育とドン・ボスコの教育、特に、「アシステンツァ」への理解を深める。 ・朝終礼の祈りと聖歌に向かう姿勢、社会人としての礼儀、マナーの指導について、より意識をもって行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドン・ボスコ生誕 200 周年の取組は、学園の教員としての在り方や生徒への関わり方について再確認できる良い機会になった。 ・各顧問の指導、サポートのもと、部活動や生徒会活動が、生徒の主体性を喚起、育成する環境となった。 ・教員の日常的指導により生活指導上の大きな問題はなかった。
<p>2. 教員はそれぞれにプロの集団の一員であることを自覚し、その向上を常とする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の基本的な生活習慣が身につくように、全教員が一体となって生活指導にあたる。 - 規則正しく、きまりよい生活を守らせる。 - 礼儀作法（挨拶と言葉遣い、身だしなみを正すこと）を身につけさせる。 ・貴重品の管理を徹底させる。 ・生徒対応にあたっては、生徒の生活背景を踏まえた上に、指導上の課題を見出し、保護者と連携して、その指導にあたる。 ・授業力アップのために、教員相互の授業見学を実施する。 ・担任力アップのために、教員研修、情報共有を密に行う。 ・進路指導の充実のために、教科で、補習・講習・課題に対する統一テキストを作成し、教員間の指導観を均質化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より、生徒の安全面（天災、犯罪事件等の被害）を考慮して携帯電話の校内持込を許可したが、それによる混乱はなかった。 ・学年団主導の定期的な生活検査を実施した。 ・講堂朝礼時、体育祭、聖歌合唱コンクール等の行事で、また、マナー講習の授業で正しい言動を意識づけることができた。 ・生活指導部から全体、学年団、学級へと注意喚起した。 ・担任、学年主任、生活指導部、管理職の連携で保護者対応が円満、且つ効果的に実行できた。 ・教科内で実施した。（専任教諭が複数の教科） ・『教師力アップ』のため、全員参加型の研修会を実施した。 ・講習等で使用する教材について、意見交換ができた。外部講師が使用したテキスト（勉強合宿・冬期講習など）を教科で検討し、教材作成の一助とすることができた。

<ul style="list-style-type: none"> 外部業者の補助教材（受験に関するもの。例 受験サプリーなど）を参考に、教科指導の在り方を個人検証する。 教育支援の必要な生徒への対応は、教育支援担当者を中心に、管理職、学年、スクールカウンセラーは、相互に連携をとり合い、適切な対応を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材を参考に、教科指導を検証することができた。 学校生活に困難を抱える生徒に対して、その保護者との連携をとるよう心がけた。
<p>3. 組織的な縦の繋がりを強化する</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導にあっては、管理職は元より教員間の意思疎通を図り、組織の一員としての自覚をもつ。 各部会の運営を円滑に行い、それぞれの情報を共有する。 模試等を主催している業者の協力を仰ぎ、教員全員が一定の「分析力」を身につけ、生徒の状況を把握し、適切な教科指導、進路指導を目指す。 「生徒カルテ」を活かし、担任、学年団に限らず、全員で教科指導、進路指導に当たる。 	<ul style="list-style-type: none"> 組織的に実行できた。 会議での積極的な発言が増えた。 校内研修の実施、或いは外部研修への参加により、精緻な情報を得、生徒の進路指導に活かせた。 新たに導入したシステムへの情報蓄積を開始した。
<p>4. 各担当部署の重荷となっている『慣例』を検証し、不要を削除し、その実行性を速める</p> <ul style="list-style-type: none"> 再試制度をはじめ、教務的内容の有効性について検証し、精査する。 進路指導の向上のために、進路指導部によるデータ処理や教員への情報提供の重要性を高め、即時性を持つ。 進路説明会やコースの行事等を各学年、コースを中心として企画、検討をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 入念な検討のうえに、改善策が模索できた。 進路指導部として、教員、生徒に、有用な情報提供ができた。 外部業者の協力で、生徒、保護者に対して、進路選択のための情報提供を行えた。

<p>5. 職場環境の整理を心掛ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理意識のもとで、職員室の机、ロッカー、パソコン内のデータ管理、整理を充実させる。 ・節電、節約を徹底する。 ・社会人としての良識をわきまえ、服務規律を意識して、その責任を全うする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職を中心に発信。
<p>6. 他校種との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の勧め ・他校種の行事等を具体的に意識し、連絡、相談を丁寧に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職を中心に発信。 ・他校種への注意を払った。
<p>7. 校内研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドン・ボスコ生誕 200 周年を節目とし、創立者の姿勢を学び、それぞれが向き合えるためのサポートの機会を十分に持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各研修ともに、適切に実施された。

2) 募集活動報告：中学校・高等学校

平成27年度 事業計画	報告
<p>(要項、リーフレット・ホームページなどの作成)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パンフレットやリーフレットの内容充実 2. パンフレット・案内チラシにおけるインパクト(変わったことを強調) 内部小学校入学者・保護者の協力を依頼 3. 入試問題集、募集要項・願書は従来形式を基本に作成 4. 郵送による出願受付を継続 5. 効果効率を念頭に配布機会と対象を吟味し、適正数を作成 6. ホームページの活用及び内容の充実 <p>(学校説明会(学園内外)の開催)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内イベント実施 <ol style="list-style-type: none"> ①内部小のみ対象「城星中学校オープンスクール」実施 ②中学受験イベント：オープンスクール(3回)・中入試説明会(2回)・中学プレテスト(2回) 入試対策セミナー(2回)・中学入試個別相談会(1回)・中学直前説明会(1回) ③高校受験イベント：オープンスクール(5回)・高入試説明会(2回) 高入試個別相談会(1回)・高校入試対策セミナー(1回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットについては、明るいイメージをもとに、進路実績がわかりやすいように学部ごとに掲載をした。 ・リーフレットなど、本校独自のチラシ等をデザインをし、入試広報室事務局が作成し好評であった。 ・受験情報誌などへの高校等の掲載については、これまでの広報量の確保に加えて、生徒・保護者の最も身近なアクセス手段であるHP上において、教育活動を広く発信した。 ・郵送による出願も多くはないが継続してよかった。 <ul style="list-style-type: none"> ・学内説明会において、毎月2回のオープンスクール・説明会等を実施。本校の良さをアピールするためには、必要不可欠でした。その効果は、高校入試においては活かされた。

<p>④個別相談会は随時受付</p> <p>⑤塾対象説明会を2回実施</p> <p>⑥公立中学校進路指導対象説明会実施</p> <p>2. 「15改革」を中心とした説明資料の作成</p> <p>3. 女子中フェア、中学フェア・キリスト教学校フェア他、新聞社、塾実施のイベント、中学校合同説明会に参加</p> <p>4. 内外イベントにおいて在校生・卒業生から学園の魅力を直接訴える企画を実施</p> <p>5. 在校生・卒業生との密な繋がり(日常生活で友人等などに学園をアピールしてもらう)</p> <p>ユニオーネ(同窓会)城星の役員への協力依頼</p> <p>6. 保護者と教員のコミュニケーションを図る(茶話会などの企画実行)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別相談会は、祝日に設定をしたところ、高校入試においての相談件数は多く、コミュニケーションを図ることができた。 ・高校入試に繋がることができた。 ・外部説明会については、本校の知名度を向上すべく、これまで十分にカバーできなかった通学区域で開催される説明会や塾主催の入試説明会への積極的な参加を図り、中学・高校入試において658(前年比120%)の参加となった。 ・塾対象説明会には、200名の先生方の参加が大幅増ならびに新たに中学校対象説明会も開催し、それぞれ(前年比132%)80名のご参加をいただいた。 ・特に塾対象説明会においては、「15改革」を中心とした資料の作成は見せ方を考えポイントを絞り作成した。
<p>(学校・塾訪問)</p> <p>1. 効果を意識した塾・中学校の確実な訪問</p> <p>2. 主要訪問先と一般訪問先の分類とそれぞれに適した訪問の実施</p> <p>3. 塾・中学校訪問を教員一丸となり活動</p> <p>4. 卒業生が出身中・学習塾に対しより細かな情報提供ができる体制を整備</p> <p>5. 特に塾には生徒の様子について密な情報提供と連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・塾・中学校へのきめ細やかな情報の伝達のため、より効率的且つ精力的な活動を行うことができた。 ・塾・中学校へ、在校生の学園生活・成績などの報告を実施をする。また、塾からの、本校へのアドバイスなどをいただき教育活動に活かすことができた。 ・塾訪問件数1221件(前年比129%) ・中学校訪問件数826件(前年比131%)
<p>(広告媒体の活用)</p> <p>・実施した広告媒体の検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広告による広報活動に工夫した。

2. 施設設備計画（報告）

教育環境整備の一環として、次の工事等を実施した。

①	工事・設備等名称	工事業者	執行月	金額（円）	
				予定額	実績額
①	講堂渡り廊下側溝増幅工事	竹中工務店	3～4月	648,000	648,000
②	西門インターロッキング補修	竹中工務店	3～4月	583,200	583,200
③	本館北面外壁・笠木塗装工事	MID	8月	15,827,400	15,827,400
④	高校棟高架水槽取替	竹中工務店	8月	5,562,000	5,562,000
⑤	本館法人統括室(理事長室含む)改修工事	日興商会・他	8月	2,524,392	2,582,712
⑥	幼稚園更衣室等改修工事等	竹中工務店・他	3～4月	3,105,000	2,798,640
⑦	図工室床改修	竹中工務店	3～4月	535,680	535,680
⑧	本館1F廊下水銀灯のLED化	パナソニック	8月	864,000	864,000
⑨	体育館水銀灯のLED化	パナソニック	8月	4,266,000	4,266,000
⑩	高校棟空調機入替	玉尾ショップ	8月	15,660,000	15,660,000
⑪	高校棟1F廊下壁塗装補修	竹中工務店	8月	489,240	489,240
⑫	正門時計台改修	雄工舎	3～4月	598,860	598,860
⑬	講堂プロジェクター・音響機器更新	日東電機	8月	12,625,200	12,625,200
⑭	SSプール水槽内塗膜防水	大同塗料	5月	3,024,000	3,024,000
追加	体育館・講堂・高校棟配管塗装	MID	8月	2,484,000	2,484,000
	飼育小屋跡土間打ち	竹中工務店	8月	339,120	339,120
	小学校職員室エアコン取替 ※	玉尾ショップ	8月	1,296,000	1,296,000
	事務室エアコン取替 ※	岩田電気機器	9月	398,520	398,520
	公用車買替 ※	大阪トヨペット	9月	2,786,000	2,786,000
	スイミングスクールプール出入口修理※	京阪ビルテクノサービス	10月	405,000	405,000
計				74,021,612	73,773,572

※ 故障等により急遽実施。

3 財務状況（報告）

生徒数減による帰属収入が減少している。特に中高生の生徒数を増やすことで、帰属収入の増加が求められる。

